



地域愛称マップ

か み

可美地区



1 大島山 (おしまやま)



高塚町

旧可美村の最西北に位置し、高塚の小学「大島」と呼ばれていたところがあります。東西の高低い丘には松や雑木の林が広がり、たいへん寂しい場所であったので、キツネが住み着いたと伝えられています。昭和の初め、紡織工場の進出により砂山は崩されました。人々は、その地名を愛し、可美団地内の公園を「大島公園」と名付けて親しんでいます。



2 大堀 (おおほり)



高塚町

江戸時代の文久3年(1863年)、館山寺堀藩主大沢石京太夫(うきようたけう)に提出した書類によると、当時の高塚は、旧東海道沿いにならずか116戸ばかりのひっそりとした農村でした。昭和4年(1929年)、東海道線高塚駅が開設された当時も寒村そのものでした。高塚駅南口前の東西道路を西へおよそ1.5町(約150m)行った辺り、周囲よりおよそ3間(約5~6m)高い場所があり、その下は水をたくわえた細長い堀であったため、この一帯は昔から「大堀」と伝えられています。



3 お宮の山 (おみやのやま)



高塚町

昔、熊野神社の神主に「境内に土砂を盛り上げて丘を造り住民を救え」という神のお告げがありました。そこで、氏子一同と図って、浜から砂を担いで持ち帰り、神社の裏山に盛り上げていきました。後に安政の大地震(1854年)(※)が起きた時に、熊野神社の氏子はこの丘に避難して助かったと伝えられています。今でも毎年元旦に浜から砂を境内に持ち帰り参拝する「浜垢離(はまおり)」の行事が続いています。 ※応永の大地震(1498年)という説もあります



4 麦飯長者跡 (むぎめちやうじやあと)



高塚町

馬子の五郎兵衛がある僧を馬に乗せて宿まで送りました。家に戻ると馬の鞍に僧が忘れたお経とお金を見つけ、返そうと保管していましたが、30年近く経ってしまいました。再び僧と会うことができ、返そうとしましたが、受け取らないため、その使途を考えた結果、道行く人々に湯茶や麦飯の接待を始めました。その善行によって小野田の姓を貰い、代々小野田五郎兵衛を名乗り、いつしか長者様、麦飯長者と言われるようになりました。



5 源十道路 (げんじゅうどうろ)



高塚町

国道257号(旧東海道)高塚熊野神社参道入口の南側に、小沢渡町方面に行く少し細い道(旧村道)があります。昭和30年(1955年)以前は、高塚・入野方面より小沢渡・倉松町方面へ行く主要な道路でした。しかし、道幅はわずか6尺(約1.8m)しかなく、自動車の通行はもちろんできなかったため、自動車は迂回することになり、たいへん不便でした。この道路の名前は、高橋源十氏の名前をもらって、名付けられたものといわれています。



6 八幡川路 (はちまなかわじ)



高塚町

昭和38年(1963年)ごろまでは、東西およそ0.6里(約2.5km)、南北およそ4町(約0.4km)の細長い池がありました。この池は「蓮池」と呼ばれ、別名「高塚池」とも言われていました。蓮池(高塚池)は全体が深い泥沼のため、遊泳はできませんでした。しかし、高塚の八幡川路と伝えられているところは、池の底が白砂で覆われ、砂の間からきれいな冷たい水が湧き出ていました。子ども達を中心に格好の遊泳場となっていました。



7 高札場跡(高塚)・秋葉燈籠跡 (こうさつばあと) (あきはとうろうあと)



高塚町

幕府や領主が決めた規則や掟などを木の札に書き、人目につきやすい場所に掲げて村人達に告知していた。木札は高さ2間(約3.6m)、横1間(約1.7m)、縦0.6間(約1m)ほどありました。秋葉燈籠は街道の要所に設置されていたものの1つです。江戸時代から秋葉信仰(火防の神)が盛んになり、小さな祠を建てて秋葉神社のお札を祀っていました。



8 高塚学校 (たかつかがっこう)



高塚町

高塚の地蔵院は、早くから庶民の教育に熱心で、子どもたちの多くは寺子屋で読み・書き・そろばんを習いました。明治6年(1873年)6月、地蔵院に敷知郡高塚学校が創立されました。次第に学童も増え、手狭となり、明治14年(1881年)8月、高塚学校は増築村に新築移転されました。今の可美小学校の前身です。



9 地蔵院 (じぞういん)



高塚町

護法山(ごぼうざん)地蔵院は禅宗の一派、臨濟宗方丈寺の寺院です。寺伝によると、開山は將軍足利義満の時代、明徳元年(1390年)に元道円密和尚によって創建されました。地蔵院の本尊は腹籠延命地藏菩薩(地藏尊)で、江戸時代の宝暦8年(1758年)、高塚の小野田五郎兵衛久繁が奉納したものです。この地藏菩薩は、徳川家康の夫人の樂山御前が守り本尊として肌身離さず持っていたものといわれています。



10 四孝女(しこうじょ)

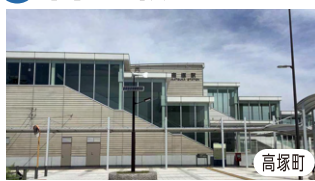


高塚町

江戸時代の半ば(18世紀半ば)、小野田五郎兵衛久繁という長者(財産家)が住んでいました。しかし、娘夫婦は14歳の長女おさき、12歳のおやす、8歳のおかの、6歳のおそのの4人の姉妹を残し、年若くして2人ともこの世を去りました。悲しみに暮れていた4人の姉妹は、亡き父母の供養のために五郎兵衛久繁のすずめ仮名法華經の書写に励み、宝暦5年(1755年)より3年かけ法華經2部を完成させました。現在、地蔵院と小野田家に保存されています。このことを高僧白隠禪師が「八重律(やえむぐら)」に書いて公表しました。



11 高塚駅(たかつかえき)



高塚町

明治21年(1888年)に東海道線が開通し、浜松駅、馬郡駅(現在の舞阪駅)が開設されました。高塚駅は明治44年(1911年)に信号場として設置されていたので、駅が開設されることは村民の長年の悲願でした。大正12年(1923年)に始まった新駅開設の請願運動により、昭和4年(1929年)7月1日に高塚駅が開設されました。昭和52年(1977年)駅舎改築。その後、平成27年(2015年)に3代目駅舎が完成しています。



12 浜地通り(はまちどおり)



高塚町

入野小学校の西側の道路を南におよそ300m行くと、新川橋という橋がかかっています。この橋の付近には、古くから浜砂が集積した土地があり、人々はこの土地を「浜地」と呼んでいました。この地方に残る習わしに海で体や心を浄める浜おり(浜ごりともいわれた)という行事がありました。

